

2020年3月31日

日本医学会分科会 事務局御中

日本医学会

ポリファーマシーに対する啓発資材の活用について（周知依頼）

平素より、本会の事業推進にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、令和2年3月24日付にて、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課より、別添の通り、ポリファーマシーに対する啓発資材の活用についての周知依頼がありましたので、貴学会の会員各位に周知の程よろしくお願ひします。

関連URLは下記の通りです。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10074.html

詳細は、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課（電話：03-5253-1111 内線2744）担当の駒井氏にお問い合わせ下さいませようお願ひ申し上げます。

日本医学会 電話：03-3946-2121（内線4260）
（担当：高橋）

事務連絡
令和2年3月24日

各

都道府県
保健所設置市
特別区

 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課

ポリファーマシーに対する啓発資材の活用について

薬事行政の推進につきましては、平素から格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

高齢化の進展に伴い、加齢による生理的な変化や複数の併存疾患を治療するための医薬品の多剤服用によって、安全性の問題が生じやすい状況にあることから、平成29年4月に「高齢者医薬品適正使用検討会」（以下「検討会」という。）を設置しました。そのような多剤服用の中でも害をなすものを特に「ポリファーマシー」と呼び、検討会において高齢者の薬物療法の安全確保に必要な事項の調査・検討を進めています。

今般、広く国民の皆さまにポリファーマシーに対して関心を持っていただくための啓発資材を日本製薬工業協会及びくすりの適正使用協議会が作成し、検討会の確認を経た上で厚生労働省ホームページ

(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10074.html) に掲載いたしました。つきましては、国民・都道府県民に医薬品の情報提供を行う機会等におきまして、本資材をご活用いただきますようお願い申し上げます。

事務連絡
令和2年3月24日

日本医学会 御中

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課

ポリファーマシーに対する啓発資材の活用について

標記について、添付のとおり、各都道府県衛生主管部（局）等宛てに事務連絡を発出しましたので、会員及び関係者への周知につきご配慮いただきますようお願いいたします。

あなたのくすり いくつ飲んでいきますか？



高齢になると、くすりの数が増えて
副作用が起こりやすくなるので
注意が必要です。

監 修：東京大学大学院医学系研究科老年病学教授 秋下 雅弘
厚生労働省

制 作：一般社団法人 くすりの適正使用協議会
日本製薬工業協会

なぜ、高齢者ではくすりの数が増えるの？

高齢になると、複数の病気を持つ人が増えてきます。病気の数が増え、受診する医療機関が複数になることもくすりが増える原因となります。

75歳以上の高齢者の4割は5種類以上のくすりを使っています。高齢者では、使っているくすりが6種類以上になると、副作用を起こす人が増えるというデータもあります。

「ポリファーマシー」って聞いたことがありますか

多くのくすりを服用しているために、副作用を起こしたり、きちんとくすりが飲めなくなったりしている状態をいいます。単に服用するくすりの数が多いことではありません。



なぜ、高齢者では副作用が起こりやすいの？

高齢になると、肝臓や腎臓の働きが弱くなり、くすりを分解したり、体の外に排泄したりするのに時間がかかるようになります。

また、くすりの数が増えると、くすり同士が相互に影響し合うこともあります。

そのため、くすりが効きすぎてしまったり、効かなかったり、副作用が出やすくなったりすることがあります。



「なにか変だな」「いつもと違う」と感じたら？

くすりを飲んでいて、次のような症状が気になることはありませんか？くすりが追加されたり、変わったりした後は、特に注意しましょう。



医師、薬剤師に相談

気になる症状があっても、勝手にくすりをやめたり、減らしたりするのはよくありません。

くすりが多いからといって必ず減らすべきということではありません。くすりによっては、急にやめると病状が悪化したり、思わぬ副作用が出ることがあります。必ず、医師や薬剤師に相談しましょう。



相談する時は具体的にどうすればいいの？

- 使っているくすりは、必ず全部伝えましょう。くすり以外で毎日飲んでいる健康食品やサプリメントがある場合は、その情報も伝えましょう。



- いつ頃から、どのような症状が出てきたのか、気になる症状についてメモしておきましょう。

日頃から、注意しておくことは？

- 日頃から、かかりつけの医師や薬剤師を持って、処方されているくすりの情報を把握してもらっておくのが安心です。
- 自分の処方されているくすりがわかるように、お薬手帳を持ちましょう。お薬手帳は1冊にまとめておきましょう。



もっと詳しいことが知りたい方は、一般社団法人日本老年医学会のホームページに掲載のパンフレットをご覧ください

多すぎる薬と副作用

